

「一か所に人々が集中すると」

先月 29 日、韓国の首都ソウルの繁華街・イテウォンの坂道で 155 名が亡くなる雑踏事故が発生した。韓国の人気ドラマでも紹介された場所で起きた悲惨な事故だ。ハロウィン直前の週末、新型コロナウイルス感染症による規制もなく、10万人以上が自発的にこの繁華街に繰り出した。事故はイテウォン駅の出口がある大通りと、この通りと平行で有名な飲食店やクラブが集まる通りを結ぶ、幅約 3.2 メートル、長さ約 40 メートルの狭い坂道。そのうちの 18 平方メートルという狭い範囲に約 300 人が倒れ、六重、七重に積み重なったという。

テレビでは「群衆雪崩」と言う言葉を使っていた。群衆雪崩とは、1 平方メートルあたり 10 人以上が密集している空間で、誰かが倒れたり、しゃがみこんだりした場合、その隙間に向かって次々と倒れこんでいく事故。映像では、人が身動きできず、押されている様子が映し出されている。まるで、昭和の満員電車のようだ。電車なら押している人は、ドアの付近で乗ろうとしている人たちだけだが、この場合は人の流れからかなりの力がかかっていたと推測される。

ここ数年で、10月末のハロウィンは一大イベントになった。仮装した人は、その姿を人に見せたいし、自然と繁華街に集まる。また、それを見ようとする人が集まる。東京でいえば渋谷あたりがそうだ。コロナ禍で自粛していた状況からの解放感もある。これだけの事故が起こったのだから、人出が少なくなるのではと思われたが、テレビの映像などでは、渋谷のスクランブル交差点やセンター街は平日とは思えないような人が集まっていた。

決して他国の問題ではない。日本でも 21 年前、兵庫県の明石花火大会を見に行こうとする人々で混雑する歩道橋で類似した事故が発生し、11 名が亡くなっている。多くの人が集まる場所では、このような危険性をはらんでいる。コロナ禍でもあり、人との距離が十分に保てないような混雑する場所や、安全性が疑われる場所は避けた方が良いと思う。

11月1日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 ある生徒が家から学校に行くのに毎分 72 m で歩くと予定より 2 分遅れ、毎分 96 m で歩くと予定より 3 分早く着きます。家から学校までの距離は何 m でしょうか。